

成溪會誌

1995. 1 No. 80



特別寄稿

腸内細菌と健康	光岡 知足	2
老化の予防	高崎 優	7
今後の日本経済の見通しと市場動向	石本 祐司	12

随想

旧制高校籠球部全国制覇	井上 陽一	19
集団疎開先柘村再訪記	本城 邦彦	20
「野ばら」を唄う	依田 武	22
ワシントン桜まつり	竹越俊五郎	24
虹の子たち	江上 尚志	26
ナキウサギの世界	川道 武男	27
戦没者レリーフと献花	石坂 泰彦	29
音楽部長倉石五郎先生	池田 重隆	30

OB紹介・この人に聞く

中井貴一さん	72
田中滋美さん	72
渡辺達生さん	73
泣くも笑うも初日が勝負(津ヶ谷年弘さん)	74
「未完成」に開かれた私の音楽人生(小林宗生さん)	75

同窓のつどい

● 恩師を囲んで	31
近藤正二郎先生に感謝する会	武部高雄先生御退任記念パーティー
藤平桓三先生を偲ぶ会	AK会
内田信夫先生の古希を祝う会	宇野重昭先生出版記念会
● 学校年次会のこと	34
法学部創立25周年記念式典	蹊電会総会
あれから35年これから	高校卒業30周年
蹊水会	桃江会
ふもと会	霜山会
桃祿会	高校2回生の集い
● 体育会・文化会OB会	38
法学研究会40周年	自動車部創部40周年
● 業界・企業同窓会	
東京海上成蹊会	成蹊法曹会
● 地域同窓会	40
ニューヨーク成蹊会	渋谷成蹊会
茨城成蹊会	新潟成蹊会
三重成蹊会	岡山成蹊会
中国支部成蹊会総会	成蹊大学地域懇談会
北九州・山口成蹊会	
● 寮歌祭	45
日本寮歌祭	埼玉寮歌祭
東海学士会寮歌祭	神戸寮歌祭
横浜寮歌祭	広島寮歌祭

● 会員動静 / 48	● 第34回謝恩顕彰会 / 68
成蹊学園の近況 / 76	● 学園史料館資料紹介 / 82
アジア太平洋研究センター / 84	● 図書館蔵書案内 / 85
成蹊会報告 / 86	● 叙勲 / 86
物故会員 / 67	● 予告 / 44
● 四大学運動競技大会 / 29	● ウインドオーケストラ金賞受賞 / 47
● 表紙のことば / 44	● 成蹊小学校80周年記念事業 / 44

表紙の題字は上條信山先生、絵は宮道弓子(高34年)

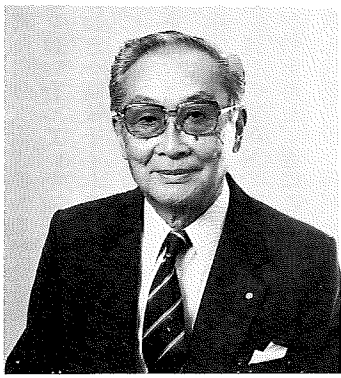
随想



あの日あの時

旧制高校籠球部全国制覇

井上 陽一



成蹊運動部の快拳

成蹊運動部の歴史を顧りみて、今世紀中には二度と無いと思はれる快拳が三つある。

其の一、僕達の頃は失礼ながら弱い部と思っていた我が野球部が、あと一度の勝利で、甲子園に出られる所まで勝ち残った。この時の決勝戦相手は早稲田実業、後の巨人軍の王選手などを

擁する強豪だったので、奮闘も空しく十三対一で玉砕したのも止むを得なかったであろう。併し兎に角、こゝまで勝ち残ったのは、最初にして最後の事と思う。過日、霞ヶ関カントリーで成蹊OB会があり、此の時たまたま一緒にプレーした島田君が此の対早実戦ではファーストを守っていた由、「王さんの打球が来るのが恐ろしかった」との話を聞いたばかりであった。

其の二、高校時代の筆者は陸上競技部の選手でもあったが、此の部が終戦後間も無い年のこと、当時、陸上界の有名上位校でなければ出場出来ない箱根駅伝参加十五校の一つに選ばれたと言う珍事があった。これも今世紀中には二度とは有り得ぬと思うのは、筆者のみではあるまい。此の時たまたま箱根フジヤホテルに宿泊中のわたしは宮の下あたりに応援に出て成蹊校選手が来るのを今か今かと待っていたが、寒さで待ちきれず、引きあげた思い出がある。

其の三、上記二つは戦後のこと、次に戦前の古い話で恐縮だが、我ら成蹊同窓の諸氏には覚えておいてもらいたい事がある。即ち、成蹊高校が、昭六年のバスケットで全日本に優勝して、此の年の『日本一』となった事だ。当

時の選手メンバーの多くは既にあの世に去られているので、今や生き残りの一人として、この快拳を記録にとどめておくのも意義ある事と思うので、こゝに一筆した次第である。

第一回全日本総合選手権大会

それは日本籠球協会が主催した第一回の全日本総合選手権大会であった。全国各地の予選を勝ちぬいて来た代表十三チームが東京で開催の本選に臨むこととなった。

東京地区は二組に分かれ、二チームが其の代表となる事になっていた。我が成蹊高校はこの地区予選では、先輩格の兄貴分である東京帝大や、農大などを次々と連破し、遂に其の決勝戦で立教大学と対戦した。当時の立教と言えば、矢島、清水、岸、大村、山田、剣持、等々、錚々たる名選手を擁し、バスケット界では長い伝統に輝やく強豪チームであったが、我ら成蹊は善戦健斗して此の立大を破り、遂に東京代表となった。次いで本選となつては、関西代表の強豪、京都帝大等を連破して勝ち残り、愈々、本選の決勝戦に進出した。この決勝では我らと同じ東京地区代表の早稲田大学とぶつかる事となった。当時の早大は大内、森沢、早川、覚張、牧山等の名選手を擁し、六



（昭和十一年）全日本選手権大会優勝者

**全日本優勝時の成蹊高校チーム
（後列左より四人目筆者）**

大学リーグでは立教、商大と毎年其の覇を競い合っていた強豪であった。我ら如き一高校チームでは到底その足もとにも及ぶまいとの下馬評であったが、東京商大選手、中村、青柳、大橋（後の共同印刷社長）の熱心なコーチを受け、連日の猛練習で鍛えぬいた速攻戦略が効を奏し、遂にこの本選決勝戦でも我ら成蹊高校が勝利をおさめ、全国制覇を成しとげたのであった。

この決勝戦に際し、筆者はフオワードとして出場していた所、其の前の試合で右足首を骨折に近いまで痛めて

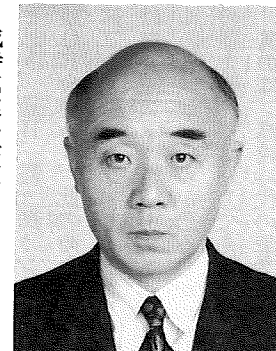
いたが、強いテーピングで頑張りぬき、タイムアップの笛を聞いた時の感激は我が生涯忘れられぬ思い出となっている。

当時の新聞は「高校の単独チームにして全日本を制す、今後とも二度とは無いであろう偉業なり」と評して居た通り、今までの所、これが最初で最後となっているものと思う。

本邦籠球成長史抄

- 昭和四年五月 第九回選手権大会南大優勝
- 昭和五年五月 北津京大優勝（六勝六敗にて勝）
- 昭和六年五月 北津京大優勝（下）に高等學校大東京として
- 昭和七年五月 北津京大優勝
- 昭和八年五月 第五回明治神宮大会に於て立教大優勝、東海大が準優勝
- 昭和九年五月 第五回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和十年五月 第五回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和十一年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和十二年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和十三年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和十四年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和十五年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和十六年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和十七年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和十八年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和十九年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和二十年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和二十一年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和二十二年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和二十三年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和二十四年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和二十五年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和二十六年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和二十七年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和二十八年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和二十九年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和三十年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和三十一年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和三十二年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和三十三年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和三十四年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和三十五年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和三十六年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和三十七年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和三十八年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和三十九年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和四十年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和四十一年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和四十二年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和四十三年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和四十四年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和四十五年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和四十六年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和四十七年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和四十八年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和四十九年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和五十年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和五十一年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和五十二年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和五十三年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和五十四年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和五十五年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和五十六年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和五十七年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和五十八年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和五十九年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和六十年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和六十一年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和六十二年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和六十三年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和六十四年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和六十五年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和六十六年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和六十七年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和六十八年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和六十九年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和七十年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和七十一年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和七十二年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和七十三年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和七十四年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和七十五年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和七十六年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和七十七年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和七十八年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和七十九年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和八十年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和八十一年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和八十二年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和八十三年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和八十四年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和八十五年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和八十六年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和八十七年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和八十八年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和八十九年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和九十年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和九十一年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和九十二年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和九十三年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和九十四年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和九十五年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和九十六年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和九十七年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和九十八年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和九十九年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝
- 昭和百年五月 第六回全日本選手権大会に於て立教大優勝

戦時成蹊小学校で集団疎開していた
埼玉県柏間の正法院と関根さんを当時



集団疎開先栢間村再訪記

かやま

本城 邦彦

当時から早五十年に近い年月が流れ、私達はこの間日本の高度成長で毎日明けても暮れても仕事のこと、夢の中で土日もなく忙がしく過し、過去のことをゆっくり振り返る暇もなく過ぎて来ましたが、もやの中から心の宝の様な過ぎしがばつと蘇り、豊饒の今日では得られない経験をしたこと、色々な色々等をして面白かったこと、成蹊の

その時の勇者達
此の全国制覇を成した時の我ら成蹊チームのメンバーは――

- 籠球部長 故、岩永源作先生
- C 故、田中秀次郎（デンチュー）
- F 井上陽一（エツチ）
- 金子正男（ヤマ）
- 田沢（現河野）義克（タツベ）
- 故、北河豊久（ハツ）
- G 高山英華（エツカ）
- 故、亀山謙一郎（カメ）
- 故、永田秀之助（エツタ）

故、梅谷典正、
故、神谷退蔵、
以上選手十名。

マネージャー 故、渡辺晴人（オヤジ）
故、足立 公
コーチ 故、青柳市作

（※）内は通称・敬称略
の高校生時代、昭和4年より昭和6年（筆者が五回記録されている間に「成蹊高校優勝」が五回記録されている。まさに此の頃の成蹊は敗けるを知らぬ連戦連勝の黄金時代であったと言っても過言ではあるまい。
日本リックウイル（旧高・6年）

中井貴一さん



P R O F I L E

なかい きいち 昭和36年9月18日生まれ。昭和57年3月に経済学部経済学科卒業。大学在学中に映画「連合艦隊」で俳優としてデビュー。代表作にTBS系「ふぞろいの林檎たち」がある。父は俳優の故佐田啓二氏、姉は中井貴恵さん。

成蹊の思い出出っつうと、今でも目に焼きついているのが、キャンパスのけやき並木なんですよ。春に若葉が出て、夏に青々と茂った葉が秋には赤くなり、冬はそれが落ちて歩くときサクサク音がする。日本には四季があるんだった、いつも教えてくれました。ぼくは中学から成蹊だったから、中一のと初めてあひのけやき並木を通ったんです。プカプカの帽子かぶって、大きなカバン持って、下から見上げながら歩いたんだな。そのとき

目に映った光景を今でも覚えている。高校、大学と上がって、もう卒業してから十年以上も経つのに、今も仕事のことで悩んだり挫折したりすると、夜ひとりでキャンパスに来るんですよ。この木はぼくが十二歳くらいから、ずっと見ててくれたんだ。って思うと、今悩んでるような気はしてすごく小さなことのような気がして、「なーんだ、って気持ちになれる笑。」

ぼくは、役者になろうなんてずっと思っただけで、大学に入ってから面接

胸を張って、成蹊の学生だって言いたい

田中滋実さん

P R O F I L E

たなか しげみ 昭和41年6月7日生まれ。平成元年3月に文学部英米文学科卒業。テレビ朝日に入社。現在は朝6時45分～8時放送「新やじうまワイド」のキャスターとして活躍中。

自由の楽しさと厳しさを教えてもらった

私は高校、大学と成蹊なんですけど、今の私の根っこみたいなものを、全部あの学園生活で培ったって気がする。一生付き合える友達も、将来やりたいことも、みんな成蹊で見つけたんですよ。大げさな言い方ですけど、人生の土台になっている笑。

今はもうつぶれちゃったけど、私たちがの代に、テニス同好会を作ったんです。そのときに顧問の先生が必要で、友達が入っていたゼミの先生に名簿持って頼みに行ったの。責任重いだらうし、受けて下さるかなって半信半疑だったんだけど、やれることはほとんどんやってみろって、二つ返事でOKで。和気あいあいでき先生たちとも本当に仲良かった。朝起きると学校へ行くのが楽しみでしようがなかったですね。

アナウンサーになろうと思ったのも、社会人になっても学生時代のように楽しく過ごしたいって発想からだったんですよ。それには自分が好きになれるような仕事がいいなって思ってた、じゃまコミュニケーション。もちろん三年生のころ就職のことを考え始めたときは、女性がずっと働くことができ、感性を生かせるような

仕事がいいとか、やりながら成長できる仕事をしたいとか、言葉では言っていたけど、自分が楽しいと思わなきゃ、それできないじゃないや(笑)。

でも、その反面、自由の難しさを教わったような気が。自由って、ものすごく簡単なようだけど、自分でコントロールしたり計画立てたりしないとやってけないということなんですよ。自由を守るためにも自分に厳しく、ある種、愈げんと戦わなきゃいけないわけですよ。そういうことを、学園生活の中で、実地で学んだって気がする。

今は早朝の番組を担当してるから、朝三時に起きるんだけど、私はすぐ欲張りというか、いろいろやりながら自分の可能性を探してみたいなって気がしてる。アナウンサーは、しゃべるというよりは、何をどう考えるか、何に興味を持つかが大切なんだと思うの。考えてみるって、そういう感性みたいなものも、学生時代に培った気がするな。今振り返ると、武蔵野の緑の中で、本当にのびのびと肩に力を入れずに青春時代を送れたんだなって思いますね。



渡辺達生さん

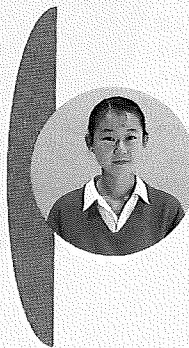
P R O F I L E

わたなべ たつお
 昭和24年1月20日生まれ。
 昭和46年3月に経済学部経済学科卒業。
 独自の才能とテクニックでカメラマンに。
 代表作に「墨田ユキ写真集」、「川島なお美写真集」などがある。

わたしは学生時代は写真部で、合宿行って写真撮って、は櫻祭(大学祭)で発表してました。でも卒業のときは、まだカメラマンになろうって確固としたものはなくて、ただ、このまま就職はしないだろうなっていう感覚だったな。週刊サンケイの写真部でアルバイトしながら、見よう見まねで仕事を覚えたんです。写真の学校に行きたいなって思ってた時期もあったんだけど、カメラっていうあんな小さなものの中に、大人が何年かかって理解できないような技術が詰まってるとは思えなかったんです。大切なのはライティングや露出っていう部分じゃなくて、使う機材ごとにカメラを向けるかっていうことじゃないかって思っていました。ぼくらのころはベビーブームだったから、小学校のときからとにかく人数が多くてね。だから成蹊みたいに人

数が少ない学校って憧れてたな。一年も通えればだれかだれだかわかったしね。だからってことじゃないけど、嫁さんも学校で見つけたんでしょ(笑)。それから、息子も今、成蹊高校に行ってる。大学時代は、映画の制作助手のようなこともやってたんですけど、周りを見回すと、音楽とか映画とか、いろいろやってる奴がいてね。そういう活動を許してくれる心地いい校風はありましたね。不思議だけど、そういう雰囲気の中にいると、自然とみんなが刺激しあうんですよ。人数が少ないから、学校全体を把握見渡せて、自分の目で居場所を把握できてっていう安心感があったと思う。そんな中でうつつと、自分の視点っていうのを確認してたんじゃないかな。それが今の仕事に役立ってるって気はしますね。

みんなが刺激しあうような心地いい雰囲気があった

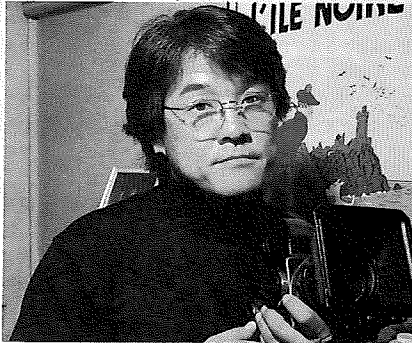


取材を終えて

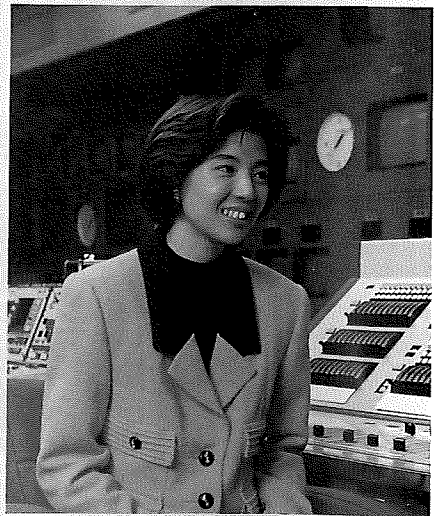
正直言って、卒業されてからも、先輩たちがこんなに成蹊に誇りを持っていらっしゃるのに感動しました。けやき並木が演出してくれる四季折々の景色も、自由な校風も、中にいるとつい当たり前のように見過ごしていたような気がします。一つの世界で成功するには、見えないところで並たいていじやない苦労や努力をされているんですね。やっぱりすごいなって、いい刺激になりました。私も成蹊の学生で本当によかったなと思える楽しい取材でした。

でどこに入りたいかとか聞かれると、博報堂 電通志望だと言ってた。それが、一年の夏休みに、連合艦隊って映画の話が来て、とりあえず一回やってみようかなって、アルバイト気分が入ったんです。子供のころから、オヤジはもういなかったんで、学費を自分で稼いだらうってのもありましたね。で、一年の終わりにデビューして、二年からなかなか学校行けなくて、試験の間なんか毎日徹夜とにかく負けず嫌いだつたら、留年して後輩と同級になるのが我慢できなかつたんだ(笑)。自由な学風なんだけど、お目こぼしなんてなくて、厳しいと

ころは厳しかった。それと本当に友達には助けられたね。いつも後者のほうで講義を聞いている奴らが、「お前にノットとてこうと思つて」って、わざわざ前の方で講義受けて、コピーとってくれて。ぼくは、学歴社会って嫌いでね。だから、コレから大学に入らうって人たちに言いたいんだけど、卒業するために一番に考えなくてはいけないのは、ソレを考えたときにぼくは、胸張って、成蹊は最高だと思つて言えますね。昔から派手さはないけど、小人数の教育にしろ、校風や環境にしろ、夢の持てる大学だと思えます。



数が少ない学校って憧れてたな。一年も通えればだれかだれだかわかったしね。だからってことじゃないけど、嫁さんも学校で見つけたんでしょ(笑)。それから、息子も今、成蹊高校に行ってる。大学時代は、映画の制作助手のようなこともやってたんですけど、周りを見回すと、音楽とか映画とか、いろいろやってる奴がいてね。そういう活動を許してくれる心地いい校風はありましたね。不思議だけど、そういう雰囲気の中にいると、自然とみんなが刺激しあうんですよ。人数が少ないから、学校全体を把握見渡せて、自分の目で居場所を把握できてっていう安心感があったと思う。そんな中でうつつと、自分の視点っていうのを確認してたんじゃないかな。それが今の仕事に役立ってるって気はしますね。



この人にきく

泣くも笑うも初日が勝負 ロードショーの仕掛け人

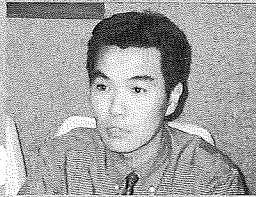
■映画宣伝は「七転八倒」「七転び八起き」

東宝東和で、映画の宣伝に携わる津ヶ谷さんは「宣伝プロデューサー」として、日本に続々入ってくる洋画の宣伝予算の組立てから、展開プラン、予告編・テレビスポットの制作、ポスター・チラシ等の制作ディレクションを一手に引き受ける。かつては「エレファント・マン」でその広告表現に神経を使いつつも苦悩の果てにヒネリ出したコピーは、大ヒットの要因として業界の評価を得た。また「エンゼル・ハート」では読売新聞映画広告賞を受賞、「ランボー3/怒りのアフガン」ではシルベスター・スタローンの背中だけを見せるポスターで、社内はもとより業界に賛否両論を呼んだが、結果としてヒットにつなげるという苦勞も経験した。

最近では、「リバー・ランズ・スルー・イット」が印象深い。やはり彼が宣伝を手がけた「クリフハンガー」のように誰がやってもヒットするだろうと言われた映画と違い、質が高くても地味な映画は腸の目を見ないこともある。そこを八方手を尽くして説得し、奔走し、初日に観客の行列を見ると、この仕事の醍醐味を感じる。

■いつも映画があった子供時代

津ヶ谷さんと映画との関わりは、5歳の頃から始まる。当時、洋品店を営む実家が、近くの東映の劇場に緞帳を寄贈した関係で、幼稚園の頃から顔パスでチャンバラ映画を観ていた。小学校4年生の頃は日活の小林旭の「渡り鳥シリーズ」に熱中し、5年生で初めての洋画を観に新宿まで一人で行った。阿佐ヶ谷のオデオン座のそばにカ



津ヶ谷 年弘氏

東宝東和営業本部宣伝部課長
法・昭和51年卒

ステラ屋の工場があり、焦げた切れ端を20円位で袋一杯買い、それを頬張りながら3本立て映画で一日を過ごした。中学生になると銀座に進出。体温計をこすっては熱が出たと早退し、試写会に行ったり、学級閉鎖の時3本立てを観に行き始末書を書かされた。ジャンルにはこだわらず感性で、高校生の頃は年に約200本は観た。10回以上観た「ドクトル・ジバゴ」、子供の親権を争う「わかれ道」という具合に、早送りされた津ヶ谷少年のコマは走馬灯のように流れて限りない。だからと言って映画オタクでは決してなく、中学では野球部の主将、高校ではサッカー、大学時代は櫻祭実行委員、そして、近鉄デパートでお好み焼き屋を仕切ったり、と一貫性はないが、結構「フツウの青春」だった。

■補欠で入社

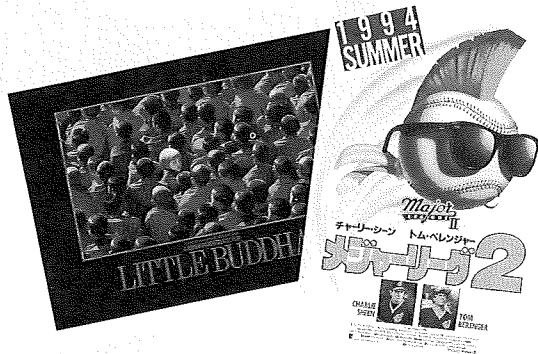
就職も映画にはこだわらず、マスコミに絞った。しかし、時はオイルショックでかなりの不況。年の瀬まで試験・面接を繰り返すも全敗。一時は就職浪人や、なぜか青年海外協力隊まで考えた。年明け、東宝東和の宣伝部員募集の広告を見つけ、3月末の最終選考まで残ったがまたダメ。3月31日には、就職の決まっていた友人たちと新宿で飲んだが「明日から入社」と張り切る仲間シラケて早めに解散。肩を落として帰宅したところへ、会社から「良かったら明日から来ないか」と思いがけない電話、今日に至る。

作品ごとに新鮮で、しかもすぐに仕事の成果が表れるこの仕事は「夢想家で山師的な性格」という彼にフィットしたようだ。

3年前の夏、「ターミネーター2」の仕事でロスを訪れ、A・シュワルツェネッガーに取材をしている間、長男が誕生。ちょうどその日が「7月4日に生まれて」だったのも、いかにも彼らしいと業界のネタにされた。

これからも映画への情熱とビジネスのバランスを取りながら、新たなチャレンジをしたいと意欲を燃やす。

(聞き手 田辺)



この人にまわく

「未完成」に開かれた私の音楽人生 学生時代はカラヤンの追っかけも

『音楽現代』をはじめとする雑誌や、CDのライナーノートを多く手がけている小林さんにお話をうかがいました。現在は、執筆活動の他に、今年11月名古屋にオープンする住友海上しらかわホールのプロデューサーとしてもご活躍です。

■音楽との出会いは？

小学校の3年生か4年生の時、学校の授業でシューベルトの「未完成」を聴かされて、感想文を書いてきなさいという宿題が出たんです。その時に、ものすごいカルチャーショックを受けて、それからクラシックを聴くようになりました。ドイツ・リートからシンフォニーへと、だんだんと広がっていきました。高校時代から、カラヤンやベームが来ると、追っかけをやって、東京・大阪の公演を全部聴きました。彼らが来るとなると、2年くらい前からアルバイトをしてお金を貯めるんです。チケットの伝票整理や、模型屋で展示用の模型を作るアルバイトなどをしました。カラヤンが見せる集中力と、それが作り出す完璧な音を聴きたくて、通ったんですね。それから、音楽を対象にものを書くようになったのは、やはり高校の時、ブルックナー協会の会報に交響曲について書いたのが最初です。まあ、本格的に書くようになったのは、大学院に入ってからです。楽器は、エレキトーン、ピアノ、フルートを習いました。当時は音大に進学したいと思っていましたが、だんだんと演奏そのものよりも楽曲の分析に興味に移っていったんです。当時和声を習っていた明治学院の樋口隆一先生が、音楽学をやったらどうかと勧めて下さいました。随分迷ったんですが、結局音大ではなく普通の大学に進学することに決めました。



小林 宗生 氏
音楽学者・評論家
文・昭和58年卒

■それで成蹊に来られたんですね。

ええ。成蹊の文化学科と、成城の文芸学部の方方に合格したんですが、私の家が三鷹なもんで、近さで成蹊を選びました(笑)。もともと、大学院は成城に行くことになりましたが。大学へは、「やるぞ」と思ってたんですが、なかなか専門的なことを習うことができなかったんで、ちょっとがっかりしました。3・4年になっても、あんまり教養との違いがありませんでしたから。ただ、佐々木先生の文化社会学のゼミや、Ⅱ類の山口先生の授業などで、今まで知らなかった、新しいアプローチのしかたを習ったのは、あとになって役に立ちましたね。それから、マスコミ論の授業で習ったことも、のちに雑誌に書くようになって、役に立っています。日本の大学は、大学院にならないと本格的な勉強ができないのが問題ですけど、大学院に進むためには幅広い基礎が必要ですから、その意味では文化学科の勉強は良かったと思います。それから、成蹊は人数が少ないので、縦横の連絡の緊密なのが良いですね。オーケストラにも入っていたので、学部・学科を超えた友人も多く、今でも仲良くつきあっている他学部の友達もいます。

■在校生に一言

遊んでも良いが、興味のあることをとことん追い求めて下さい。一方で、大学は幅広く知識を吸収するのに役立つところですから、大いに利用して自分を上げて欲しいですね。

(聞き手 境)

